

令和6年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

かほく市立金津小学校

校長 尾田 洋子

1 経営理念

「光・風・音」のある学校

- ・可能性を最大限に伸ばし、一人一人が光り輝く学校・・・「光」
- ・地域に開かれ、組織的・協働的に取り組む風通しのよい学校・・・「風」
- ・温かな人間関係の中、明るい声が響き合う学校・・・「音」

2 教育目標

- (1) 校訓「質実剛健」(飾り気がなくまじめで、心身ともに強くしっかりしていること)
- (2) 学校教育目標 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる金津っ子の育成」

3 中・長期経営目標

〈めざす児童像〉

◎感(かん)じて進んで学ぶ子

- ・主体的に学び、知識・技能を身につけようとする (主体的な学び)
- ・友達と学び合い、課題を解決しようとする (協働的な学び)

◎仲間(な)かまを思いやる子

- ・分け隔てなく接する
- ・友達の良いところを認め、応援する

◎ねばり強(づ)よく取り組む子

- ・自ら考え行動する
- ・目標を持ち、最後まで頑張ろうとする

〈めざす教師像〉

- ・高い使命感を持ち、常に自己研鑽に努める教師
- ・子供の思いを受け止め、子供への働きかけを惜しまず、ともに成長を喜び合える教師
- ・組織の一員としての役割を自覚し、協働して学校運営を推進する教師
- ・家庭や地域から信頼を得られるように努力し、連携して児童の成長を目指す教師

〈めざす学校像〉

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱をバランスよく育成し、可能性を最大限に伸ばす学校
- ・子供を第一に考え、教職員が組織的・協働的に取り組む学校
- ・保護者や地域から信頼され、連携して子供達を育てる学校
- ・一人一人が大切にされ、温かな人間関係の中で、全ての子が安心して過ごせる学校

4 カリキュラム・マネジメント

(1) カリキュラム・マネジメントの柱

「自ら考え行動する力」の育成

(2) 現状

- ・カリ・マネの柱について、職員が共通理解をしながら取り組んでいる。
- ・評価内容・方法・時期について共通理解をしながら進めている。

(3) 取組内容

- ・「課題を見出し、計画を立て、解決する力の育成」を日々の授業や行事・特別活動の中で意識して取り組む（課題解決型の学習、教科横断的な視点）。
- ・総合的な学習の時間や各教科の学習を通して児童が視点を明らかにした自己評価し、教師の評価と合わせて改善を図る（PDCAサイクルの確立）。
- ・学校コミュニティを窓口、全学年が計画的に地域の人材や恵まれた自然環境を活用した教育活動に取り組む。

5 短期経営目標（今年度の重点目標）

（★市重点目標における取組内容、下線は特に重点とする目標や取組）

(1) 学力の向上

- ア こまめな机間指導による個別指導、帯タイムの効果的な活用
- イ 1人1台端末の有効な活用と「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら学力の向上をめざす。（★1）
- ウ 学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。

(2) 生徒指導の推進★2・3

- ア 「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。
- イ 生徒指導の4つの視点（自己存在感の感受・自己決定の場の提供・共感的な人間関係の育成・安全安心な風土の醸成）を生かした教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。
- ウ いじめ・不登校・問題行動の早期発見、適切な対応に努める。事案に対しては全職員で情報共有を図るとともに、迅速にケース会議を開催し、組織的に対応する。
不登校に対しては、保護者も交えてのケース会議の実施も考え、一人一人に応じた支援を組織的・継続的に行う。児童の状況に応じて、SSRを柔軟に活用する。（★2・3）
- オ 研修を通して特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。

(3) 情操豊かな心の育成

- ア 道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。
- イ 「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組む、豊かな感性を養う。

(4) 健康と体力の向上

- ア 「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。
- イ 健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。

(5) 家庭や地域から信頼される学校づくりの推進

- ア 各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。

(6) 多忙化改善と人材育成

- ア 提案内容・取組内容の精査、会議の効率化・簡略化を図るとともに、定時退校日の設定と定時退校の徹底を図る。
- イ PDCAサイクルを意識した状況把握、責任を持った業務遂行に努める。